

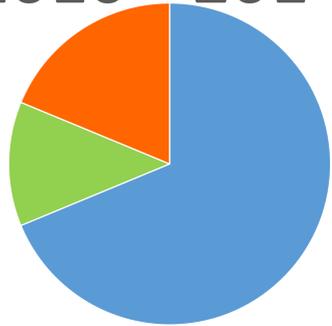
# No. 15 児童養護施設における高校卒業後の進路支援の広がり

～子どもの最善の利益のために～

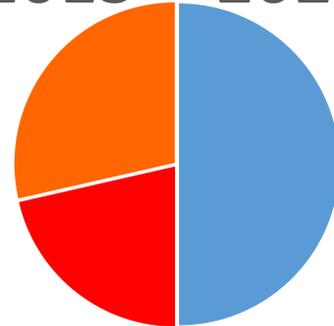
中嶋健太、松本冨加、玉田周平、濱口大裕(児童養護施設 愛染寮)

## I. 過去10年間の高校3年生の進路状況

2010～2014



2015～2020



- 就職
- 専門(看護)
- 専門
- 大学

考察1: グラフを比較すると就職よりも進学が増えていることが分かる。

## II. 昨年度の高校3年生に対する支援・内容

児童	①児童との主な面談・支援内容	②連携関係機関	③資金面	④進路先	⑤生活拠点
Aさん	大学希望の本人に保護者からの援助は無く、貯金もないため、進学は現実的ではないと話し合ってきたが、高等教育の無償化により大学に通える可能性が出てきた。	・児童相談所 ・保護者 ・学校	・民間財団の奨学金、支援金 ・日本学生支援機構	4年制大学(私大)	賃貸アパート一人暮らし(自費)
Bさん					
Cくん	児童養護施設職員になりたいと保育の短大を志望する。アルバイトを掛け持ちし、進学用の資金を貯める。学費を自分で払うつもりだったが、家族に支援してもらえらることとなった。	・児童相談所 ・保護者 ・学校	・民間財団の奨学金、支援金 ・日本学生支援機構 ・家庭の支援 ・貯金	3年生短期大学	賃貸アパート一人暮らし(自費)
Dくん	親族からの支援があり、進路は自由に選ぶことが出来た。本人の希望であるコンピュータ系の専門学校に進むこととなる。	・児童相談所 ・保護者 ・学校	・民間財団の奨学金、支援金 ・日本学生支援機構 ・家庭の支援 ・貯金	4年制専門学校	賃貸マンション (家庭の支援)
Eさん	専門学校を志望していたが保護者からの援助は無く、貯金もない。学校で相談した結果、就職してからでも専門学校に通うことは出来るという話になり、就職に決まる。	・児童相談所 ・学校	・民間財団の支援金	就職	社宅
Fくん	養護学校に在籍中、就職の為の実習をこなす。学校、本人と相談し、就職に決定する。役所、グループホーム、就職先との密なやり取りが求められた。	・児童相談所 ・学校・役所 ・障害者支援センター ・就職先 ・グループホーム	・民間財団の支援金 ・貯金	障害者雇用	グループホーム

考察2: 近年、民間財団・日本学生支援機構・高等教育無償化等の経済的支援が増えた。職員との話し合いを重ね、諸問題を解決したことで児童は幅広い進路選択が可能になった。

## III. まとめ: 取組から見えてきたこと。今後の展望

以前は経済的支援の不足から就職・進学に制限があった。考察1・2より経済的支援の充実により金銭的な課題を解決することが可能になった。今後、愛染寮として、子どもの最善の利益とは、個人の希望や能力に合わせ進路を選べることだと考えて、児童に寄り添っていく。現在は卒業生は個別に職員との関係は継続しているが、今後は愛染寮として自立支援調整員という職を設置し、卒業した児童に専門的に対応していく必要がある。